



Newsletter

2

Topics

裾野市と磐田市でトークイベント開催 各地元プレイヤーらがまちの未来語る

リノベーションまちづくりにおけるプレイヤーがまちの未来を語るトークイベントを、先月16日に裾野市で、同22日に磐田市でそれぞれ開催しました。イベントでは、昨年12月に伊東市で開催した西村浩氏の講演を視聴後、各市内のローカルプレイヤーが各自の取組やまちの未来について意見を交わしました。



裾野市では、

- ・東京から移住して喫茶店を営む石戸康幸氏
 - ・裾野市出身で立ち飲みもできる本屋を運営する菅沼祥平氏
 - ・運営する酒屋が地元の様々な情報のハブになっている服部怜氏
- が登壇。

石戸氏は裾野について、「東京や都市にない、ゆっくりした時間が流れている」ことが良さだとした上で、「裾野はノイズが少なく、やりたいことに集中できるまち。『静かに入り込める』感じだ」などと、裾野のまちだからこそ今の事業ができるとしました。

続いて、一度東京に出た後、Uターンして家業を継いだ服部氏は、「登壇している2人ともそうだが、『つかず離れず』の距離感が裾野の良さ。それぞれ思いがありつつ、必要に応じて連携する『ゆるやかなつながり』が裾野らしさ」と語りました。

裾野市出身で、東京を経て、現在は三島市内で事業を行う菅沼氏は、「東京や三島に比べ、裾野は昔ながらの風景や良さが残っている」とした上で、「石戸氏や服部氏の活動をはじめ、面白い活動が徐々に拡がっている」として、更に面白いまちになることに期待を寄せました。



一方、磐田市では、

- ・メイン通りでクラフトビール屋の運営をしながら、まちづくりを行うゴトウマサユキ氏
- ・美容師業の傍ら、磐田駅の隣駅「御厨駅」周辺でイベント等を主催する川島靖貴氏
- ・山間部で事業を行いながら、地域を担う人材の育成にも力を入れる川合伯員氏

が登壇。

ゴトウ氏は磐田のまちについて、「エリア価値が向上したり、暮らしていて楽しいまになつたりしたらしい。9年前に構想し、取組んできた」とした上で、「空き家や空き店舗といった余白を常に探し、マッチングさせていきたい」と話しました。

川島氏はイベントを開催する理由について触れ、「御厨駅を盛り上げることで、磐田全体を底上げしたい。こどもたちが帰りたくなる場所にできれば」と想いを語りました。

川合氏は今後について、「地区以外からの外貨を稼げる子どもたちが育つ場所、住み続ける場所にしたい。自ら海外法人を立ち上げるなどにより、背中を見せていきたい」と展望を語った上で、「中心部・御厨駅周辺・山間部が繋がっていくと面白そうだ」と、今後の展開に期待を寄せました。